

2021年度北九州市立大学図書館学生調査結果

-コロナ禍での学生利用動向の把握を中心に-

石原由貴・中村純子（北九州市立大学情報化推進課）・濱野 健（北九州市立大学文学部）



（北九州市立大学図書館はこちら）
kitakyu-u.ac.jp/lib

目的：大学図書館における学生の利用状況。とりわけ、コロナ禍での利用条件の中での利用動向の把握を目的とした。

調査期間：2022年1月5日～2月10日

調査方法：MS Formsを利用したウェブアンケート

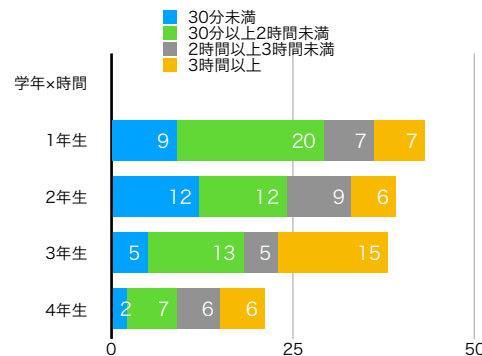


図1. 学年別利用時間 (n=141)

1. 本学における利用者の特徴

図1は回答者の平均的な利用時間についてである。回答者は1年生が多く、学年を経る毎に利用者が少ないという結果となった。

次に、主な利用目的（表1）では、蔵書の利用が最も多く、次いで事前事後学習などが挙げられた。図書館の利用については、授業関連での利用が多いことがうかがえる。また注目したいのが資格・試験勉強のための利用者が比較的多かった点である。本学は公務員志望の学生が多いことから、図書館の利用が講義や演習あるいは卒業論文のための蔵書の閲覧や検索のみならず、図書館は自習のための施設と見なされていることがわかる。

その他、学部（外国語・経済・文・法律・地域創生）別の利用時間について、集計結果では差が見られたが統計的には有意ではなかった。

また、期間中の図書館およびサービス提供に関する情報の認知経路については、図書館のホームページを利用したという回答が全体の6割を占めており、次いで学生向けポータルサイトでの情報提供や、図書館公式Twitter、あるいは図書館に来館し掲示物を直接閲覧するなどの回答があった。他方で、図書館の施設サービス案内（およびその変更）についての情報をまったく確認しないという回答が全体の2割に及ぶことも明らかとなった。

これらのことから、本学では図書館が主として授業関連のための資料検索や閲覧を目的としていることや、資格・試験勉強などの学習スペースとして活用されている。ただし、本調査期間は2021年度の後期試験期間直前の時期であったため、日頃図書館を利用しない学生も回答者に多く含まれていた。このことから、図書館を頻繁利用する学生と、特定の時期にのみ利用する学生との利用状況についてそれぞれの異なる利用動向を把握することも重要であると思われる。

表1. 図書館利用の目的（複数回答）

利用目的	回答数（複数）	全回答に占める割合
1.蔵書	109	76.2%
2.資料検索	29	20.3%
3.電子資料	5	3.5%
4.遠隔授業	26	18.2%
5.事前事後学習	88	61.5%
6.資格試験勉強	55	38.5%
7.PC/プリンタ利用	8	5.6%
8.授業以外でのWi-Fi	19	13.3%



2. 短縮開館期*における施設利用状況

図2および図3では、休館あるいは短縮開館期における学生の利用状況の変化についての回答結果である。施設利用（図2）および図書館で提供している電子資料（図3）のいずれにおいても、利用状況に変化が見られなかった。

この期間、図書館では来館できない学生のために電子資料の利用条件を緩和するなどの対応を採ったが、必ずしも学生の利用は促進されなかったようである。同様に、図書館が提供する各種電子資料（CiNiiやその他図書館で契約している電子データベース）の利用状況をたずねた質問では、いずれも利用率が低かった。

3. まとめと今後の検討課題

今回の調査では図書館の利用の実態を具体的に把握することができた。他方、コロナ禍をきっかけとした利用状況の変化については、遠隔授業の受講を除いては、例えば電子資料へのアクセスの増加などに大きな変化は見られなかった。

このような調査結果は、ウィズコロナ時代の大学図書館サービス、とくにデジタルなサービスについての検討課題を明らかにしたといえる。

*緊急事態宣言やまん延防止法により、2021年5月16日から6月20日まで図書館の開館日及び閉館時間が制限されていた（月～土 19時閉館・日曜休館）

- まったく来館しなかった(61)
- かなり減った(38)
- やや減った(18)
- 変化はなかった(22)
- 増えた(4)

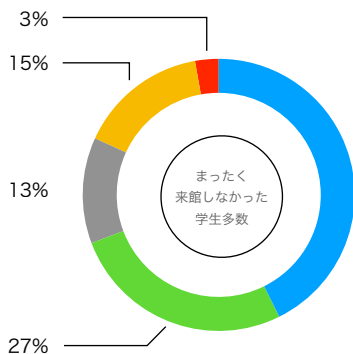


図2. 休館または短縮開館期における利用状況の変化 (n=143)

- まったく利用していない(70)
- ほとんど利用しなかった(12)
- 利用に変化はなかった(49)
- 利用が増えた(12)

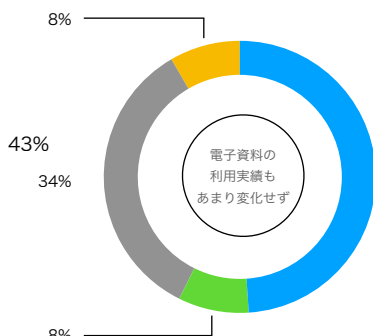


図3. 休館または短縮開館期における電子資料利用状況の変化 (n=143)

※本調査は2021-22年度学長選考型研究採択事業「大学図書館の「ダイバーシティ」拡張：新しい社会情勢に対応した学修・研究支援の開発とその効果検証についての実践的研究」による助成を受けて行われました。